

第26期 新体制スタート 府内19農委会が改選

農業委員・推進委員 439人で業務推進

府内19市町村の農業委員会で第26期の委員改選が行われ、439人(農業委員276人、推進委員163人)の委員が選ばれた。改選前に女性委員が不在だった2町(大山崎町と伊根町)で女性委員が復活し、非改選を含む府内の女性委員の総数は62人となった。今回の改選では、再任委員が279人(64%)、新任委員が160人(36%)を占めた。久御山町では新任委員が14人(70%)となり、新旧交代が一気に進んだ。推進体制が整った。表。

第26期 農業委員会の新体制―改選19市町村―

委員会名	会長名	委員数(計)		
		農業委員	推進委員	
向日市	(新) 山本 貴之	16	16	—
長岡京市	(新) 中小路忠宏	17	14	3
大山崎町	(現) 垣内 兵次	8	8	—
宇治市	(新) 中林 和夫	18	14	4
城陽市	(現) 谷 則男	20	14	6
久御山町	(現) 田中 壽嗣	20	14	6
八幡市	(現) 奥村 芳治	20	14	6
京田辺市	(現) 澤田 康夫	25	14	11
宇治田原町	(現) 浅田 豊春	23	14	9
笠置町	(現) 植田 克巳	10	10	—
和束町	(新) 岡田 勝	17	14	3
精華町	(現) 岩井 三郎	19	14	5
南山城村	(現) 中窪 耕司	19	14	5
亀岡市	(現) 神崎 弥	48	19	29
綾部市	(新) 坂根 正司	36	19	17
舞鶴市	(現) 今田 壽孝	35	19	16
福知山市	(現) 藤田 重行	50	20	30
宮津市	(現) 関野 掲司	24	14	10
伊根町	(新) 大西 一彰	14	11	3
19委員会 計		439	276	163

※委員数は各農業委員会の初総会時点

<参考>非改選7市町の委員数

委員会名	会長名	現在数 委員数(計)		
		農業委員	推進委員	
京都市	大橋 宗治	48	21	27
京丹後市	梅田 和男	51	19	32
木津川市	尾崎 吉博	38	19	19
京丹波町	山田 進	40	19	21
井手町	寺島 正直	12	10	2
南丹市	浅田 均	48	19	29
与謝野町	番 晃	25	14	11
7委員会 計		262	121	141
26委員会 計		701	397	304

初総会を終えて 新会長6人の「抱負」

改選後に各農業委員会で初総会が行われた結果、6農業委員会で会長が交代した。新会長の皆さんに寄稿していただいた抱負を紹介する。

長岡京市農業委員会 中小路 忠宏会長(67)



「たけのこ」守り、地域農業の発展に尽力
長岡京市では、農業者の高齢化や後継者不足、農地の減少が課題であり、たけのこの生産継続と持続可能な農業の実現に向けて、農業者の声を大切にし、関係機関や地域の方と力を合わせ取り組んでいきたい。微力ながら地域農業の発展と農地の保全に全力を尽くしたい。

和束町農業委員会 岡田 勝会長(69)



茶業息づく町、和束の農業を守る
先人から受け継いできた美しい茶畑と、長い歴史の中で培われた茶業の文化が息づく和束町で、農業者の声に耳を傾け、抱えている課題を一緒に考えながら、若い人たちにも「和束で農業をしたい」と思ってもらえる環境づくりに努め、力を合わせて和束町の農業をより良いものにしていきたい。

伊根町農業委員会 大西 一彰会長(73)



持続可能な農業基盤の確立を
高齢化で耕作者不足が深刻化し、農地の維持が喫緊の課題となっている。故郷の風景と恵みを守るため、「担い手に集約する農地」「集落の共同作業で維持する農地」「継続して守る農地」「保全・転換を検討する農地」に分けて、次世代に継承できる仕組みづくりに取り組む。地域計画の更新と、集落を囲む獣害防止柵の設置も進めていきたい。

向日市農業委員会 山本 貴之会長(53)



やりがいある農業めざし地域を支援
向日市では、産地と消費地に近い特性を活かして、地産地消の推進とともに、立地条件を生かした生産性の高い都市近郊型の農業が営まれているが、近年、大規模開発による農地の減少や、高齢化に伴う新たな担い手の確保が課題となっている。農業委員会として、将来にわたり「やりがい」を持てる農業をめざして、地域の支援に取り組みたい。

宇治市農業委員会 中林 和夫会長(62)



地域の特徴に応じた農業の発展に挑む
市内の農地で大きな割合を占める巨椋池干拓田は、優良農地であるが、出入作が多いので、近隣市町と協力して「意欲ある担い手」に集約していきたい。中山間地域では高齢化や後継者不足による農地の荒廃と鳥獣害の対策、市街地では近隣住民との相互理解を促進するなど、各地区の課題に真摯に向き合いながら、地域農業の発展に寄与していきたい。

綾部市農業委員会 坂根 正司会長(70)



地域の若い農業者を大切にしたい
中山間地域では、離農者が増えて農地の継承が難しくなり、農外利用への転用も含めて「農地を整理したい」という人がいる一方、地域農業を懸命に支える農業者が効率的に営農できていない。若い担い手など、意欲的な農業者が営農しやすいように、農業委員・農地利用最適化推進委員が協力して、大規模な農業者の意見も大事にしながら、小規模でも効率的な農地利用ができるように活動していきたい。

ごあいさつ

京都府農業会議会長 小田 一彦



6月24日に開催された京都府農業会議総会で、栗山正隆前会長が退任し、小田一彦新会長(72)が就任した。
京都府農業会議は、2018年に京都府農業総合支援センターと合併した。多様な担い手が共存・協働する農業農村の実現へ、農委会や自治体などと連携し活動を展開

新任女性委員の研修交流会開く

先輩委員の助言で不安解消

きょうと女性農業委員・推進委員の会



きょうと女性農業委員・推進委員の会(山下明子会長、会員62人)は、「新任女性委員研修交流会」を南北2会場で開催し、先輩委員の助言者が新任委員をサポートして活動する体制整備を進めている。
8月31日に開催した北部会場(宮津市)の交流会には、舞鶴市・福知山市・宮津市から新任委員と先輩委員が参加した。隣接する与謝野町と京丹後市の先輩委員も出席し、新任委員の質問に答えながら交流を深めた。
9月4日に開催した南部会場(京田辺市)の交流会には、久御山町・八幡市・京田辺市・井手町・宇治田原町・精華町の女性委員が参加した。自己紹介や各委員会の活動紹介を通じて、先輩委員が自分自身の率直な経験を語りながら、新任委員を激励した。